



10年先を見据え人に投資

—2025年の振り返りを
「創業100周年の節目を迎え、
全国で社員やその家族、OB・O
Gなど約5500人を集めて祝賀
会を開催した。また、1年前から
残業時間の適正化や休暇取得の徹

き上げを行うことで、技能者の給
与水準が変わらないようにも配慮
している。ここを到達点とせず、
今後は顧客の理解を得ながら、完
全閉所を目指したい」

—業績面は

「売上高は減少したが、事業の
質を高めることで利益を下げず、
工事・製品ともに目標を達成で
きています。工事の受注時規律や
製品の利幅管理を徹底すると

し、適正な利益を求める経営だ。
現場社員の意識改革も進み、収益
を押し上げている。今期から始ま
った新中期経営計画の3年間は飛
躍の年と位置付け、売り上げも利
益も両方伸ばしていく転換期とし
たい」

—成長をどう実現する

「工事と製品で利益を確保して
いくことに加え、第3の柱の確立
が必須だ。道路の包括管理などの

もに、人件費や運搬費の上昇分
を顧客に説明し、値上げも実施し
た」

「前中期経営計画では経営方針
を従前の売上主義から利益を生み
出す考え方へ切り替えている。単
なる利益追求ではなく、顧客の信
頼をベースに質の高い仕事を提供

取り組みは粘り強く続ける。PP
Pは全案件にチャレンジし、ノウ
ハウを蓄積して将来につなげた
い。同時に全社員への教育と研修
に力を注いでいく。仕事のスキル
だけでなく、教養や知識を含めた
視野を広げる教育を徹底し、10年
先に効いてくる人への投資を行っ

ていく」

「三井住友建設とのシナジーも
見込める。新しい顧客層へのアプ
ローチが広がり、営業機会を増や
せる。三井住友建設との具体的な
協議は未着手だが、互いの強み・
弱みを補完しながら、舗装事業の
総合力を高めてシェア拡大を狙い
たい」

「目標達成のためにはM&A
(企業の合併・買収)も視野に入
れている。インフラ系グループ
としてだけではなく事業会社とし
ても検討が必要だ。異なる事業領
域との連携も視野に入れ、会社の
広がりをつくりたい」

横顔

直木賞作家の山本一乃の大ファン。
深川駕籠シリーズの『クリ粥』など江
戸人情を描いた作品がお気に入り。今
年の一字は成長や目標達成の意味を込
めて「成」を選んだ。

